

研究分野のキーワード：臨床心理学，特別支援教育，自閉症，カウンセリング，遊戯療法

研究紹介

・1992年10月に愛知教育大学に赴任して以来、以前は障害児治療教育センター、現在は教育臨床総合センター発達支援相談室と呼ばれる組織で発達相談を担当しながら、授業は主に特別支援教育関係を担当しています。

・臨床心理士の資格をもち、発達障害をはじめとした障害のある子どもの保護者のカウンセリングや、障害のある子どもの遊戯療法（プレイセラピー）を実践しています。遊戯療法は、自閉症などコミュニケーションに問題のある子どもに対して、遊びを通して支援する方法です。遊戯療法は、指導する学生さんにも担当してもらっています。

・岡崎市に住んでおり、岡崎市特別支援教育連携協議会など、岡崎市をはじめとした特別支援教育関連の事業に関わっています。地域の小・中学校から依頼されて、特別支援教育巡回相談に出かけて行くこともあります。通常の学級や特別支援学級に在籍する障害があると思われる子どもの授業を観察し、そのあとで担任の先生や特別支援教育コーディネーターの先生、校長先生と話し合いをしたりします。保護者の相談に関わることもあります。

・またある市の、母子療育相談にも関わっています。母子療育相談とは、幼稚園・保育園に入園する前の発達に心配のある幼児とその保護者に対する支援です。幼い子どもの遊ぶ様子を観察したあと、おかあさんのカウンセリングをします。

・大学内では、発達障害児のための学校支援ボランティア活動に携わる学生たちと定期的にグループワークを行っています。そこでは、小学校の特別支援学級に在籍する児童などを支援する学生の話聞き、アドバイスをしています。

・論文は『特別支援教育における保護者の支援、保護者との連携』『発達障害児の支援』『箱庭の中で誕生を繰り返した広汎性発達障害児の事例』『発達障害児のための学校支援ボランティア事業』『心身症女性との心理療法過程』『障害児臨床とカウンセリング』などがあります。

・翻訳は『子どもの心理療法-サイコダイナミクスを学ぶ』『ユングの世界—現代の視点から—』『欲動、自我、対象、自己—精神分析理論の臨床的総合』（すべて共訳）などがあります。